

「未来の浜中町」作文・絵画コンクール 入賞作品集

作文の部

浜中町長賞

「霧多布、明るい未来へ」

霧多布小学校 金澤 侑季

私は、浜中町、仲の浜に住んでいて、霧多布小学校にかよっています。

霧多布は、とても素敵で、心が強い町です。なぜかという、昔、十勝おき地しんつなみが霧多布の町を流してしまいました。ですが、生き残った町の人達は、またやり直そう、町を作り直そうと、立ち上がりました。ところがふたたび、チリつなみがおしよせ、霧多布の町が流されてしまいました。町の人達の苦労が無だになってしまいましたが、もうダメだとあきらめるのではなく、またまた立ち上がり、町を再生させようと、生き残った町の人達が力を合わせがんばりました。結果、なんと、また、美しい町へともどったのです。こういうことがあったから、今のこの霧多布の町があるのです。私は、昔の霧多布の人達はすごいなあ、と、思いました。

私は、このすごい町をもっといい町にしようと思いました。なぜかという、こういうすごい事が出来た町だから、さらにいい町に出きる、そう思ったからです。

どういう町にしたいかという、もっとしぜんのはかいのない、火事のない、生きものとふれあえる、そういう町にしたいのです。なぜかという、最近火事があったし、今、温だん化が進んでいて、げんいんの一つが、火や電気などを使って出てくる、二さんかたんそで地球が温められ、北極や、南極の氷が

とけて、北極ぐまがぜつめつきぐ動物に指定されたり、氷がとけたせいで、島が小さくなっています。

もう一つが、けむりの中にふくまれている、黒い粉が雲に入り雪といっしょに北極や南極にふり、黒色が熱を集めやすい原因になっています。こうしたかんきょうはかいの原因をたくさんの人達に知ってもらい、昔の霧多布の人々がつなみの後一ちだんけつしたようにみんなで協力して自然ゆたかな町に行きたいです。

「私達の浜中町」

茶内中学校 宮崎 有花

私は、今の浜中町はすごく環境が良くて恵まれていると思う。とくに、ここがどうなれば良いとか、お店がほしいというものはありません。もし、お店を建てるとなったら木を切り倒し、草を刈りと大切な自然を失わなければいけない場合もあります。

お店と自然。どちらが大切か、と聞かれると「お店」と言う人もいます。けれども私は浜中町のためにも「自然」を選びます。浜中町は人と人との交流が盛んで町はいつも人の温かさに包まれています。この温かさも自然があるからこそだと思います。

もし浜中町にビルやお店が建ち並んでいたら人はそれぞれに行動し交流する場が少なくなります。こういう事が今の浜中町では起

生命支える大地と海
自然と調和するまち
はまなか
～未来につなごう 豊かな環境～

こってほしくない、と誰もが思うはずです。では、そのためにはどうしたらよいか。そう考えた時、出てくる答えは「自然を大切にしよう」という事だと思えます。浜中町には、「湿原」というどれ程の時間がかかったか分からない程時間をかけて、できた大自然があります。一度こわしてしまうとすぐにもとの姿に戻ることはできません。そうすると、これまでの時間は全て消えてゆくのです。何にもかえられない時間が0になってしまうのです。それを人が知った時、やはり思う事は「自然を大切にしよう」という事です。

後悔してから思うのではなく、1人1人がそう心がけていけばいいのだと思えます。私はこれから先も、浜中町の自然と人の温かさに包まれて暮らしていける事を、望んでいます。

「未来の浜中町」

霧多布高等学校 佐々木 蓮

現在浜中町の観光産業を支えているのは霧多布湿原である。浜中町を訪れる観光客も十年間で四十万人程となっており、その内宿泊客は浜中観光ホテルの廃業により減少し、地域経済に大きな影響を与えている。

現在観光をめぐる社会的状況が情報化、国際化へと変わり、余暇時間の増加に伴う本格的なレジャー時代を迎え、国民の観光意識も団体旅行から個人化、小グループ化に移行してきている。

これらの状況をふまえ、浜中町は湿原センターの機能を活かしたエコツーリズムによる自然体験型観光を積極的に推進している。しかし近年、観光客から自然のすばらしさが実

感できるが、農業・漁業の食材を活かした飲食ができない、魅力のある特産物がないなどの声が寄せられている。

これらをふまえて今後の浜中町の方向性として、浜中町の特徴を前面に出したり、魅力ある観光資源（味覚、体験、まつりなど）に取り組んでいかなければならない。他にも観光客へのマナー、ルールの徹底を図り、自然に優しい設備の維持、管理をして、観光資源である湿原、岬などの景観保全の強化をするのも必要である。他に、土日の飲食店の営業、市街地、観光施設の緑化促進運動、清掃環境美化に努めて観光客や訪れた人々を温かく迎える運動を積極的に行う。農業・漁業の産物を活かした魅力ある特産品の開発や霧多布岬キャンプ場の運営強化を図る。他にも加工特産品の企画、研究、地場産品の観光関連業者への積極的な活用を図り、伝統、歴史、風土、産業などの観光資源を掘り起こす。これも行政団体などとの連携を強化していかなければならない課題でもある。

既に産業団体・観光業者などが試行錯誤しながら地場産品を使った製品の開発、湿原・無人島へのガイドなど活発に民間活力が注がれており、これからは行政が側面から支援する「協働」のまちづくりが展開していこう。浜中町の特徴を前面に出し、魅力ある観光資源の開発に取り組み、自然に優しい設備の維持管理を図る。例えば湿原・岬などの景観保全を強化する観光施設の緑化促進運動、清掃環境美化に努めることで自然を守り、増やしていく。

ホスピタリティ運動を展開し、観光客や訪れた人を温かく迎える運動を積極的に行うことで観光客にまた来たいと思わせる。霧多

布岬キャンプ場の運営強化を図る。これらの
ことで観光客の宿泊者数を増加してより浜中

町の観光産業を活発化させることにつながる
だろう。

まちづくり委員長賞

「浜中町の明るい未来」

霧多布小学校 細越 大吾

笑顔や笑いがいっぱい、犯罪がなく、
行事がたくさんあるそんな浜中町がずっと
ずっと続くというのがぼくの考える明るい未
来です。犯罪があったら安心してくれない
けど、笑顔や笑いがいっぱいだったらみんな
(町の人全員)が仲良くなれると思うからです。

あと行事がたくさんあったら町の人全員が
交流できるし、色々なやりとりできるからです。

例えば言葉をかかわすことがふえるし、お店
の物をみんなが買うことによってお金が町の中
を回ってゆたかになることです。そのため
に、今ぼく達が出来るとはまず、だれに会っ
ても笑顔であいさつをすることが大切だと思
います。

あいさつをすることによって相手も笑顔に
なるし自分も笑顔になるからです。

ぼくは、行事をふやし楽しい町にするには
企画したり、実行したりすることが大切です。
それを出来るように今ぼく達は、一生けん命
勉強します。これが、ぼくが考える明るい未
来です。

「未来の浜中町」

茶内第三小学校 鈴木みなみ

私が思っている未来の浜中町は、観光で有

名で、エコで有名、人口が沢山の浜中町になっ
てほしいです。観光で有名にするのは、湿原
や、けんぼつき島や、ムツゴロウ王国を復活
させて有名にしたいです。そして、ガイドブッ
クを作って、インターネットで販売します。
きっと町おこしにもなると思います。そして、
ガイドブックを見た、遠くからは、「この町
きれいでいいね。」と言って、移住してくる
かもしれません。そして、浜中町の人口も増
えて、色々な事が出来ると思います。

例えば、雪祭りでも、雪像を作る人が、増
えて楽しくなると思います。最後は、やっぱ
り、エコでしょう。今でもエコ活動に取り組
んでいる、さらに、強化して、取り組みれば良
いと思います。

電気は、太陽発電にしてみれば、お金もか
かんないし、変なガスも出なくて良いと思
います。

それに、ここ、第三は、霧多布のように霧
もなくって、天気の良い日が多いから、町の
電気をまかなえると思いました。

未来の浜中町を有名にして、がっぺいしな
いようにしたいです。

そして、復かつした、ムツゴロウ王国を一
度は見てみたいです。また、海などをきれい
にしたら、町のシンボルの、エトピリカが帰っ
てきてくれるかもしれません。

未来は、浜中町の人口も増えて、楽しい町

生命支える大地と海
自然と調和するまち
はまなか
～未来につなごう 豊かな環境～

になってくれたら、うれしいです。

「浜中町の未来は…」

霧多布小学校 榊田 千聖

私は、「自然」と「漁業」につくて、この作文に書きました。

まず、自然です。地球環境で昨年、湯沸で木を植えました。木は湯沸だけでなく、霧多布湿原センターにも私はやってみたらどうかと思います。そうすれば、地球にやさしく、緑豊かな町づくりができると思います。それに、霧多布湿原の動物たちにもいいことですし、もしかしたら、日本一の昆布の生産だけでなく、日本一きれいで、緑豊かな町にも、なるのかもしれませんが。

次に漁業です。私も手伝いをしていますが、海へ行くと、ビニール袋や空きカンがあつたりします。これだと、環境にも悪く、一番に、海を汚染します。ようするに、魚は住みにくくなり、ウニや昆布もだめになってしまいます。そうゆうことを無くすため、少しでもいいから、ゴミの回収やみんなでのゴミ拾いを積極的に取り組んでいってほしいです。

こうすると、この町はよくなる。ここを直せば良くなるんじゃないかと、数年かけて、話し合い、実行すれば、もしかしたら浜中町の未来は、きっといい「町」であると思います。

「浜中町をこんな町にしたい」

霧多布中学校 谷口 結香

浜中町は住みやすい町か。と考えると、迷う。自然が豊かだし、食べ物もおいしいけど、いざ、住みやすいか考えるとやっぱり迷う。

だから私は、「安全で住みやすい町」にしたいと思う。

まず、安全。浜中町は、海が近い所がある。もし、地震が来て、津波がくるとなった時、路面がこおっていたら、大変な渋滞が起こると思う。最近、震度四くらいの地震があった。その時、路面はこおっていた。私は、その時があつてから行動しても、遅いと思う。だから、先に行動するべきだと思う。

次に、住みやすさについて。浜中町は、高齢者が多い。足腰が痛いなか、バス停まで行き、釧路へ出かける人もいる。そう考えると不便である。買いたいと思っても買えないので、釧路に行かなければいけないのが現状である。そうなると、浜中町の景気も下がる。それに、浜中町には、空いた、店や、家などそれなりに多い。そこには何かできないかと、私は思う。それに、古い家は、安全にも関係する。危ないと思う。

どうにかして、浜中町に人が集まらないか、景気がよくなり、安全で、住みやすい浜中町とならないか。そうなる、私がまずできることとは何か、私一人の力で、安全や、住みやすい町作りなど少し難しいと思う。やはり、協力すべきだと思う。クリーン作戦や花を植えたりなど、もうしている活動だって、少しずつ町を変えていると思う。それは、一人でやっているものではない、町民が協力してやっていることである。だから私は、少しずつ協力し、浜中町を笑顔あふれる、安全で住みやすい町にしていきたい。

「浜中町をこんな町にしたい」

霧多布中学校 高野可奈子

私は浜中町を、環境に優しく、便利でたくさんの人が楽しめるような町にしたいと思います。

そのような町にするには、大きな建物やイベントがあったり、たくさんの人達が地球に優しくする必要があると思います。そんな町にすることで、地球温暖化を少しでも止めるようにできたり、たくさんの人達が浜中町に来るようになって、たくさんの人達の笑顔であふれる町になったら、とても住みやすい町にすることができるようになると思います。

しかし、浜中町の現状は、大きな建物がほとんどなく、大きなイベントも少ないと思います。それと、レジ袋は有料化したけれど、まだ、環境に優しくない人がたくさんいると私は思います。

だから、浜中町を住みやすい町にするためには、大きなデパートなどをつくって、買物などがスムーズにできるようにしたり、大きな霧多布湿原や、漁業が盛んなのをいかして、大きなイベントを開いたりしてみると良いと思います。それから環境に優しい人を増やす為に、環境に関する呼びかけをすすめることで、環境に優しい町になると思います。

そうなるために、今の自分にできることは、家庭内だけでも、環境に気を付けることだと思います。例えば、買った物はすぐに捨てないようにしたり、本当に必要な物だけを買うようにするだけでも、とても違いがでると思います。

このように、身近な所から気を付けていくことで、浜中町をより良い町にできます。だから、毎日毎日少しずつ、小さなことから

も、気を付けて生活したいと思います。

「未来の浜中町」

茶内中学校 澤辺愛理沙

緑の大地、耳を澄ますと聞こえる鳥の声、風の音…。

これこそ浜中町が明日へと残していくものです。

私はこの町に住んでいて、不便だと感じたことは沢山あります。しかし、この町に住んでいることを誇りに思うこともあります。この自然と共に生きていることを嬉しく思います。夜見上げるときれいな星が見られるのは今の浜中町が美しいと示しているのではないか…。私は、いつまでもこの浜中町が自然で豊かな町になってほしいと願っています。

何でも不便だからといって、自然を壊し、人間の生活を便利にすることは誰だってできますが、不便さをおさえ、自然を守っていくことは、そう簡単にはできないことです。

浜中町は、未来でも今以上に木々達の喜びの声が聞こえる町になってほしいです。

「田舎としての浜中町」

霧多布高等学校 横井 真希

皆さんは都会か田舎かと言われると、どちらに住もうと思うか。職業にもよるが、特に若い人たちは仕事を求めたり、進学するなどして都会に行く人も多いと思う。一度は都会に言ってみるのも良いとは思いますが、そのまま若者がどんどん出て行ってしまっただけではどうか。最近、ニュースで過疎化やそれに伴う財政難が言われている。どうすればこの状態

生命支える大地と海
自然と調和するまち
はまなか
～未来につなごう 豊かな環境～

を改善できるだろうか。

浜中町は酪農業と漁業を中心とした町である。豊富な自然、牛や昆布の生育に適した冷涼な気候のおかげで一大産業として発展してきた。しかし、自然環境や労働過重など労働条件の悪化、価格の低迷や後継者不足による経営状態の悪化などの問題によって従事者が年々減少している。他にも、便利で活気があるとに行きたいなど仕事に関係ない理由も多い。しかし、これらの問題を解決するためにはまず産業の活性化が必要である。浜中町では酪農業の場合、飼料のじか生産の推進や酪農支援システムの整備を行っている。また、就農研修牧場の整備など後継者対策も行っている。漁業の場合は環境整備や後継者対策に加えて、生活環境の整備や災害対策も行っている。従来の方法だと個々の家の規模拡大を推進してきたが、それよりも小規模の農家を多くしていった方が良いと思う。そうすれば人口が増え、町としての利益も増えて活気のある町になる。つまり、一点に集中している人口をならして、過疎化と産業の衰退を同時に防ぐわけである。小規模農家であれば負担も少なく、万一離農しても全体での損失は少ないので急激に衰えることもない。その他全体の生産が上がることにより食料自給率低下をおさえるなど、メリットは多い。都

市部を減らせば環境問題にもつながるかもしれない。無理に都市化や大規模化を求めるとかえって人口に偏りがでたり、お金の負担になったりしかねない。田舎は田舎らしく小さくした方が自然で合理的であると思う。

このような町をつくるためにも、先程の町の対策は重要である。特に新規就農者への補助は大切である。しかし、それに使う資金などの問題もある。現時点では公共機関の経費削減などで出来るだけお金を節約してもらいたい。公共施設も本当に必要なものか見極める必要がある。建物ばかりにしないということである。また、産業についての宣伝を増やして観光に来てもらったり、農漁業について興味をもってもらうことからでも良いと思う。

まずは地道に人を増やしていかなければならないと思う。そのためには町だけでなく、都会の人々の意識も変えなければならない。人は便利さを求めて都市化をしたがるが、自然の中の生活というのも、とても気持ちの良いものである。環境破壊や食料自給率の低下などを考え合わせても、日本はもっと田舎を増やすべきである。

自然な生活のできる田舎こそ今一番見直して欲しいものである。浜中町の未来もこのような小規模の農家がたくさん集まって、さらに活気のある町になって欲しいと思う。